

NEW CROWN



ENGLISH SERIES

USE Read 指導のヒントと実践例



もくじ

USE Read 指導のポイント	2
授業展開の一例 —Book 1 Lesson 7 を例に	4
リーディングのためのタスク例	6
USE Read 実践例	
1 生徒の「読みたい」気持ちを引き出す授業 (Book 2 Lesson 2)	16
2 事実発問と類推発問で読みを深める授業 (Book 3 Lesson 4)	18
3 ライティングにつながるリーディング指導 (Book 2 Lesson 5)	20
「読む力」を評価する3つのポイント	23

USE Read 指導のポイント

根岸 雅史 (東京外国語大学)

1. GET と USE Read の違い

GET と USE Read では本文の位置づけが異なるため、指導や学び方も変える必要があります。

	位置づけ	生徒の学習
GET	①文法や語彙の導入・習熟のための素材	新出の文法や語彙の確認、音読・暗唱によってインテイク
	②リスニングのスク립ト	オーラル・イントロダクションで内容理解したあと、文字で確認
	③表現のモデルとしての素材	本文を参考にしてアウトプット
USE Read	①読むための素材	黙読による内容理解
	②人間教育的な素材	題材内容について考える

2. USE Read 効果的な指導のための8つのポイント

①「読む力とは何か」を生徒と共有する

以下の2点を、生徒にくり返し言って、理解させます。

- 読む力とは、訳や音読ではなく、「(黙読で)内容が理解できること」であること。
- 長文の場合は、意味がわからない単語があってもポイントが押さえられることが大事であること。

②新出語句は、先に手当てする

生徒の状況に合わせて、以下のように先に新出語句の意味を確認しておくことで、読みがスムーズになります。

- 読むにあたってキーとなる語句は、Pre-Reading 段階で提示し、意味を確認する。
- 単語ワークシートなどを使って、新出語句の意味を確認する。

* 「Teacher's Manual ④ワークシート集」に新出語句と日本語訳を併記した単語ワークシートを収録しています。

* 前後関係や語の形などから意味を類推する力をつけることも大事なことで、その余地を残しておくともよいでしょう。

③自力で英文を読む体験をさせる

教師はオーラル・イントロダクションをしたり、文法の解説をしたりと、様々な形で生徒の内容理解の支援をしています。しかし、教室を離れると、生徒たちは自力で読解していかなければなりません。USE Read を活用して、そうした体験をさせます。

- オーラル・イントロダクションをする場合は、本文内容には深入りせず、題材の背景となる話や新語の導入などにあてる。
- 生徒が自分で英文に向き合う場面をつくる。

* 「自力で」英文を読む体験は、予習ではなく授業中にさせましょう。教師の指導の下で読み、理解するという経験をしたあとで、自宅で何度も読んで理解できるように復習するよう、指導するとよいでしょう。

④指導の流れは、概要から詳細へ

全文の意味を一語一語でいねいにとっていくのは、GETに向いている指導法です。リーディングの力をつける USE Read では、以下の流れで指導しましょう。

- 指導の前半は、全文または一定分量のまとまりを読み、概要や要点をとらえる練習をさせる。
- まずは一度、英文を通して読ませる。さらに、目的を持たせて（たとえば、In-Reading のタスクの答えを見つけるつもりで読ませる、など）くり返し読ませる。
- 指導の後半は、上述の目的を達成するために必要な文法・語句・文が複雑な箇所などの意味、代名詞の照応などを確認し、細部を理解させていく。

*読み方の基本は上記の通りですが、テキストタイプによっては読み方を変えた方が自然な場合もあります。詳細を読み取っていくことが本来の読み方から考えても自然と思われる文章については、そのように読み進めていくとよいでしょう。

⑤タスクのねらいに応じた取り組みをする

それぞれのタスクには異なるねらいがありますので、その趣旨を意識して活動します。

- Pre-Reading →読む準備（題材の背景知識や読む目的を与える。）
- In-Reading →本文の内容理解（概要や要点を把握させたり、細かい点を理解させたりする。）
- Post-Reading →読んだ内容のふりかえり（書かれていないメッセージを読み取らせたり、自分の考えをまとめさせたりする。）

*教科書の In-Reading には、英問英答がありますが、英語で答えられることよりも、内容を理解していることがポイントなので、生徒の状況を見て、同様の趣旨の和問和答をしたり、内容を図表や絵にして完成させたりすることも可能です。

*詳細は、「リーディングのためのタスク例」(p.6) 参照。

⑥訳はポイントだけに絞る

USE Read 全文の逐語訳は、時間がかかる上に、このページの趣旨からはずれてしまいます。英語を英語のまま理解することが最終目標であり、訳はあくまでも補助であることを、教師と生徒で共有します。

- 日本語訳は、新出文法や複雑な文程度にとどめる。
- 訳がないと不安な生徒もいるので、必要に応じて全訳を最後に配布する。

⑦共同作業をさせる(協同学習)

リーディング自体は個人内作業ですが、活動においては、ペアやグループを活用すると活発な授業となります。グループ内での教え合い、学び合いで、より理解が促進されます。

- Pre-Reading や Post-Reading のタスクについて話し合わせたり、タスクの結果がどのようになるか、グループで議論させたりする。

⑧ワークシートを活用する

ワークシートに書き込んでいくことで、教科書がきれいなまま残り、何度も読む練習ができます。

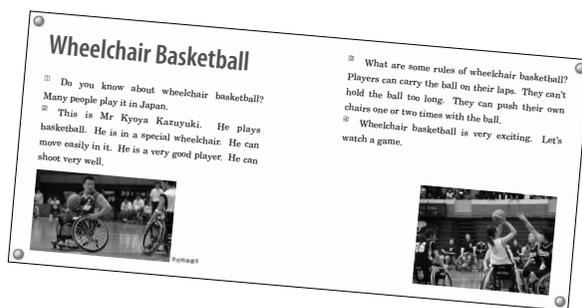
- 指導書付属の CD-ROM, Web サイトなどのデータに、独自の設問を加え、ワークシートを作成する。本文も付け加えておくとよい。

授業展開の一例

— Book 1 Lesson 7を例に

DAY 1

段階	活動内容	●該当箇所 / ■教材
プレ活動 5分	Pre-Reading バスケットボールについての背景知識を活性化させる。	●教科書 Pre-Reading ■USE Read ワークシート
語句の導入 10分	Words* ・新出の語句や表現の意味を確認する。 ・新出の語句や表現の発音練習をする。	●教科書  Words ■フラッシュカード ■単語ワークシート
本文の読解 (概要把握) 25分	黙読 ・少し時間をとり、黙読をする。 (何度か読んだあとに音声を聞いてもよい。) ・読みながら、タスクに取り組む。 In-Reading 1 ・「印象に残った語句」をペアで確認する。 ・クラス全体に問いかけ、指名した何人かが発表する。 In-Reading 2 ・(1)～(3)のタスクに取り組む。 ・ペアやクラス全体でタスクの結果について話し合う。 In-Reading 3 ・「バスケットボールのルール」について、本文の記述箇所にアンダーラインを引く。 ・ペアやクラス全体でタスクの結果について話し合う。 Tips 題材の補充的背景知識に触れる。	●教科書 本文 (■ CD) ●教科書 In-Reading ■USE Read ワークシート
本文の音読 5分	Listening 全体を通して CD を聞く。 音読* Chorus reading, Buzz reading などを行う。	●教科書 本文 ■ CD
まとめ 5分	宿題 何度か黙読をして、英語の質問を3つ考える。	●教科書  Tips



DAY 2

段階

活動内容

●該当箇所 / ■教材

復習

5分

語句・表現の確認

- ・新出の語句や表現の英語を見て英語を言う。
- ・新出の語句や表現の日本語を見て英語を言う。

本文の読解

(詳細理解)
20分

黙読

教科書を何度か読む。
(時間を計って記録してもよい。)

In-Reading

本文の内容理解に関して、In-Reading の復習 + 教師独自の質問についてやりとりする。

Check (pp.84-85)

- ・代名詞がさすものにアンダーラインを引く。
- ・ペアやクラス全体で答えを確認する。

本文の整理

15分

Post-Reading

[DAY 1]の宿題で作成した英語の質問を、ペアでお互いにたずね合う。

Check (p.85)

- ・can を使った文にアンダーラインを引く。
- ・ペアやクラス全体で答えを確認する。

本文の音読

5分

Listening

全体を通して CD を聞く。

音読*

Chorus reading, Buzz reading などを行う。

まとめ

5分

Try

ルールについて話し合う。

●教科書 Words

■フラッシュカード

●教科書 本文

●教科書 In-Reading

■USE Read ワークシート

●教科書 Check

●教科書 Post-Reading

■USE Read ワークシート

●教科書 Check

●教科書 本文

■CD

●教科書 Try

* Words・音読の指導方法や順序は、生徒の状況やテキストタイプに合わせ、柔軟に対応してください。

リーディングのためのタスク例

和田 朋子 (工学院大学)

リーディングタスクを活用すると、USE Read をより効果的に学習することができます。ここでは、それぞれのタスクの目的と、それに合った補充タスクのアイデアをご紹介します。

(ここでは学年とレッスンを NC1-8 (= 1年 Lesson 8) のように表します。)

リーディングタスクの種類

1. Pre-Reading タスク

- ① 背景知識を活性化させる
- ② 読む内容に目的意識や興味を持たせる
- ③ 新しい語句を導入したり、重要な表現を確認させる

2. In-Reading タスク

- ① 要点・概要を理解させる
 - a. 結論・趣旨を問う
 - b. 要約させる
 - c. 順序を問う
- ② 詳細を理解させる
 - a. 語句・文レベルの理解について問う
 - b. 読み取った情報について問う
 - c. 読み取った情報を整理させる
- ③ 実践的な読み方をさせる
- ④ 読み方のストラテジーを習得させる

3. Post-Reading タスク

- ① 文章で述べられていることに対して自分の考えを述べる
- ② 文章で取り上げられた内容に関して、自分も同じようなことを書く
- ③ 文章で与えられた情報を用いて何かを行う
- ④ 文章について自分の感情・気持ちを表現する

1. Pre-Reading タスク

Pre-Reading タスクの目的は、読む活動を行わせる前に、読む内容に対する準備を与えることです。文章を読むために準備すべきことは次の3つです。

① 背景知識を活性化させる

NC2-6, NC2-8, NC3-2, NC3-7 のように特定の国や文化について言及されている内容の場合、その国の位置や経済状況・歴史を知っておくと、書いてあることが理解しやすくなります。また、NC2-2「カレンダーになぞらえる」や NC2-7「グラフを効果的に使い分ける」は、概念について事前に何らかの導入をしておくとい良いでしょう。NC2-3「国際会議のパムフレット」や NC2-4「外国人向けのガイドブック」等、テキストタイプがはっきりしている内容では、テキストタイプへの意識を高めるタスクを行うことが効果的な読みにつながります。

以下は、NC3-2 の USE Read を読む前に、フィンランドについての背景知識を活性化させるために設定したタスクです。ワークシートを作成して配布してもよいですし、口頭で行ってもよい活動です。

背景知識を活性化させるタスク例 (NC3-2)

Finland Quiz

- 1) フィンランドはどれですか？
(ヨーロッパと北欧の白地図を見せる)
- 2) フィンランドと関係のあるものはどれですか？
(国旗・NOKIA の製品・ムーミン、不正解の絵や写真 (他国の国旗・iPad・ドラえもん等) を見せる)

②読む内容に目的意識や興味を持たせる

NC2-6, NC2-7, NC2-8, NC3-5のようにテキストタイプが明確で文章を読む目的がはっきりしている場合や、メッセージ性の高い文章を読む場合、どのような内容、あるいはメッセージを読み取る必要があるのかを示すことで、生徒は目的を持って読む活動に取り組むことができます。また、NC1-8, NC2-4, NC3-3, NC3-5のように、他文化や自文化についての文章を読む場合には、そのトピックについてどんなことを知っているのか、自分だったらどんな内容を文章に含めるだろうか等を考えさせることで、文章を読む際に「自分の情報は正しかった」や「自分が紹介しようと考えていた内容とは違う」等、予測していた内容と照らし合わせる楽しみを持たせることができます。さらに、NC2-6やNC3-6のように、GETで知り得た情報が前提となる文章では、GETとのトピックのつながりに意識を向けるタスクを行うことで、読む活動への動機付けをすることができます。

以下は、NC1-9のUSE Readを読む前に、日本の四季のなかでエマがどのような行事に興味を持ったのかを推測させるために設定した活動です。あらかじめ「外国人が日本のどのような行事に興味を持ちそうか」を予想させることで、読みの活動に「予想が正しかったのかを確認する」という目的を持たせることができます。教科書を閉じて、口頭で行ってもよいでしょう。また、読み終わったあとのPost-Readingタスクで「予想が正しかったか」を確認することも大切です。

読む内容に目的意識や興味を持たせるタスク例
(NC1-9)

Teacher: 日本には四季がありますね。4つの季節をそれぞれ英語で言うと？

Student 1: Spring, summer, fall, and winter.

Teacher: Yes. Spring, summer, fall, and winter. (黒板に書く) もし、皆さんがエマのような日本に住む外国人だったとしたら、それぞれの季節で印象に残る日本の行事は何だと思いますか？

Student 2: 春は絶対、お花見！

Teacher: Yes, 'ohanami'! (黒板の'spring'の下に書く)...

(一通り出尽したら)

Teacher: では108ページを開いてみましょう。エマはそれぞれの季節に何を選んだのか確認してみましょう。私たちの予想は当たっているかな？

③新しい語句を導入したり、重要な表現を確認させる

ある程度のまとまった内容を読ませる場合、個々の語句の意味や文構造にこだわりすぎると、文章の全体像がつかみにくくなることがあります。しかし、その語句や表現が内容理解のカギとなるものである場合、Pre-Readingの段階で導入を行い、意味を確認しておく必要があります。

以下は、NC2-7のUSE Readを読む前に、理解のためにカギとなる語の意味を確認するために設定したタスクです。ここで内容理解のカギとなるのはdrawing (s), effective (以上, 新出語), graph (s), table (s) ですので、これらの意味を確認します。USE Readの内容はGETの内容を発展させたものですので、ただ単語の意味を確認するのではなく、GETで学習した内容とこれから読む内容および新出語の意味を関連付けながら行います。ワークシートよりも、口頭で行ったほうがより効果的な活動です。

新しい語句を導入したり、重要な表現を確認させる
タスク例 (NC2-7)

Teacher: (p.80のグラフを見せながら) What's this?

Student 1: It's a graph.

Teacher: Yes. This is a graph. (p.85のグラフを見せながら) Then, what's this?

Student 2: A graph?

Teacher: Yes. Actually, these are both graphs. This is a bar graph because it has bars, and this is a circle graph because it is a circle.

(‘bar graph’ と ‘circle graph’ を板書する)

(bar graph と circle graph の発音をリピートで練習)

(p.78 の表を見せながら) Now, what’s this?

Student 3: It’s a table.

Teacher: Very good. This is a table. It shows the heights of some mountains around the world.

(p.82 の絵を見せながら) What are these?

Student 4: A blue whale and a train car.

Teacher: Yes, they are a blue whale and a train car, but are these real? No, they are drawings, or pictures, of a blue whale and a train car. (‘drawing’ を板書し、発音をリピートで練習) Because we have these drawings, we can see that a blue whale is as large as a train car. It helps us see how big a blue whale is. Drawing is an effective way to show how big a blue whale is. (‘effective’ を板書し、発音をリピートで練習)

Please open your textbooks to page 84. This is a website. It shows you effective ways to make a presentation. Let’s read the passage and find out how we can use drawings, graphs, and tables effectively in our presentations.

2. In-Reading タスク

In-Reading タスクの目的は、読む活動において、読み取るべき情報や内容を整理しながら、それを正しく読み取れているか、確認を行うことです。

例示するタスクがすべての文章に当てはまるわけではありません。文章が書かれた目的やテキストタイプを的確に理解し、文章に合ったタスクを適切に設定するようにします。

① 要点・概要を理解させる

一口に「要点・概要を理解させる」と言っても、どのようなタスクを設定するのはテキストタイプや文章の何を理解させたいのかによって異なります。書き手が何かを主張する目的で書いた文章では、文章の「結論や趣旨を問う」ことで要点・概要が理解できたのかどうかを確認することができます。論説文や新聞の社説、スピーチ原稿、手紙やメールなどはこれらに当てはまります。一方で、説明文や、前述の論説文、手紙やメールなど何かを主張する目的で書かれた内容でも、どのような理由・根拠でその主張に至るのかを理解することが重要な文章の場合は、「要約させる」ことで要点・概要が理解できたのかどうかを確認するのが適切でしょう。物語などのストーリー展開のあるものや、説明文の中でもレシピのように具体的な指示を伴うものは、読み取る内容の「順序」が概要を理解するポイントになるので、それを問うタスクを設定することで要点・概要が理解できたのかどうかを確認することができます。

a. 結論・趣旨を問う

NC2-6 は、オーストラリアの観光地について書かれた新聞のコラムとして紹介されています。筆者は Uluru を紹介し、アナング人にとって Uluru が神聖な場所であることの説明をしながら、Uluru を観光する際にはアナング人やその文化へ敬意を払うことを忘れてはならない、ということを示唆しています。この文章では、最後に書かれている筆者のメッセージを読み取ることが文章を読む目的だと考えられますので、In-Reading タスクではこのことを確認する必要があります。

結論・趣旨を問うタスク例 (NC2-6)

“Uluru” (pp.70-71) についての新聞のコラムを読んで筆者のメッセージに一番合う文を選びましょう。

- (a) Don't visit Uluru because the Anangu will become scared.
 (b) Climb and take pictures of Uluru to study Anangu culture.
 (c) Show respect to Anangu culture when you visit Uluru.

上記のタスクでは、正しい答えを選択肢の中から選ぶ形式をとっていますが、生徒の習熟度によっては、自分で答えを書かせてもよいでしょう。

b. 要約させる

NC3-3 では、英語落語の海外公演を続けているきみ江さんを、オーストラリアの中学生のショーンがインタビューした内容を読ませます。インタビューは会話なので、断続的で、全体としての流れがつかみにくい側面があります。このようなテキストタイプでは、概要を把握させるために、In-Reading タスクでインタビューの内容を要約させて、概要が理解できたのかどうかを確認します (例①)。

要約させるタスクは、空所を埋める単語の候補の有無で、タスクの難易度が大きく変わります。教師が簡単だと思って作った要約文でも、生徒にとっては空所を埋めることが思いのほか困難に感じられることがありますので、空所を埋める単語の候補はあらかじめ提示しておいたほうがよいでしょう。

ここでは「要約させるタスク」として、インタビューの内容を要約するタスクを例に挙げましたが、他にも、NC2-5 のように「花火師になりたい」という文章の結論だけでなく、「筆者がなぜそう考えるのか」という「理由」や「結論に至るまでの過程」から理解させるために、文章全体に書かれている内容を要約させるタスクを与えることは非常に有効です。

「要約をさせるタスク」の形式として、他に、自分で要約文を作成させるタスクや、文章の内容からアウトラインを書かせたり、ノートを取らせたりする

タスク (教師が作成したものを空所補充する形式も可。例②参照) などが考えられます。

要約させるタスク例① (NC3-3)

インタビュー記事を読んで、インタビューの要約文を完成させましょう。次の英文の () に合う単語を [] から選んで書きましょう。

Kimie-san is a () performer. She does her performances in (). She started performing this way because she wanted to () Japanese tradition of laughter to people around the world. She has performed in India, Malaysia, and (). Now, she will be performing in (). Kimie-san wants to continue her performance and make a more () world.

Australia, the United States, English,
rakugo, peaceful, spread

要約させるタスク例② (NC3-3)

インタビュー記事を読んで、記事のメモを完成させましょう。次の英文の () に合う単語を [] から選んで書きましょう。

Kimie-san: a () performer
 uses () in her performance
 ↑ why?

her experience in the ()
 She wants to spread Japanese tradition of laughter to people around the ().

Kimie-san's tour:

How long? --- () weeks
 Where? --- India, Malaysia, Singapore, and ()

Kimie-san's dream: continue spreading
 laughter and make a
 more () world

peaceful, Australia, the United States,
 English, world, *rakugo*, four

c. 順序を問う

NC3-4, NC3-6, NC3-7 のような物語文の場合、概要を理解するポイントは、物語中のできごとの「順序」になります。これを問うために行わせるタスクとしては、教科書の In-Reading タスクのように、できごとの順に番号を書き入れるタスク (NC3-4 および NC3-6) やストーリーの展開順に絵を並べるタスク (NC3-7) が一般的ですが、他に、物語の展開を理解するためにカギとなるセンテンスを本文中からいくつか抜き出し、それらを文章の中に出てくる順番に並べさせるタスクなども考えられます。

順序を問うタスク例 (NC3-6)

“I Have a Dream” (pp.70-73) からいくつか文を抜き出しました。

まずは “I Have a Dream” を一度読みましょう。その後、以下の文を、教科書を見ないで、教科書に出てくる順番に番号をつけましょう。

- () Finally, black people won the right to sit anywhere.
- () From this small act by Rosa Parks, a huge movement started.
- () With this, part of Dr King and Mrs Park’s dream came true: freedom and equality for all.
- () “I have a dream today.”
- () “Let’s fight for the right of anyone to take any seat on any bus.”

上記のタスクでは、物語のあらすじをまとめる意味で、各段落の中で最も重要な文を抜き出しました。生徒がタスクを行う際には、本文に戻らず、物語を読んだ記憶のみでタスクを完成させることが望ましいですが、解説時には本文を参照してかまいません。

②詳細を理解させる

読む活動において「詳細を理解させる」ときに注意しなければならないことは、「すべてを詳細に読ませよう」としないことです。文章中に書いてある英語を日本語に訳せたとしても、生徒がすべてを理解できたとは限りません。逆に、文章中に少々あいまいな部分が残ったとしても、読み取るべき内容が理解できていれば、文章を読む目的は達成されたといえます。与えられた文章の趣旨にあったメリハリのある読みをさせるためにも、In-Reading の段階で、読み取るべき情報を的確に問うようなタスクを設定し、それに沿って効率的に読むことを習慣づけることが大切です。

a. 語句・文レベルの理解について問う

個々の語句・文が示す意味や、文と文の関係を問うタスクです。

代名詞が何を指しているのかを理解することは、文章の詳細を理解するうえで重要なカギとなることがしばしばあります。代名詞以外でも、例えば上記タスクの “everyone” は、ただ「皆」と訳すのではなく、「運動会で戦ったどちらのチームの人々も皆」というとらえ方をすることで、より文章の理解が深まることが期待されます。前述の通り、「書いてあることをすべて理解させる」のではなく、文章理解のカギになる部分のみに焦点を当てるためにも、あえてその部分のみをワークシート上にピックアップして理解させるのは効果的です。

語句・文レベルの理解について問うタスク例

(NC1-9)

以下の単語が何を指しているのか説明しなさい。

箇所	単語	何を指しているのか
p.108 6行目	They	
p.108 15行目	them	
p.109 7行目	everyone	

b. 読み取った情報について問う

文章を読むことで得た情報が正しく理解できているのかを問うタスクです。NC2-4 や NC3-5 のように、生徒にとって新しい（であろう）情報が与えられている文章などを読ませる場合は、生徒が個々の情報を正しく理解できているのかを確認することが必要です。このような文章の詳細について問う場合は、True or False のタスクや Q&A のタスクを用いることで理解内容を問うことができます。

読み取った情報について問うタスク例① (NC2-4)

“Enjoy Sushi” (pp.42-43) を読み、以下の文が内容と一致していれば T を、一致していなければ F を () に書き入れましょう。

- () In Japan, all sushi have fish.
- () *Kazarimaki-zushi* has colorful images.
- () There are no vegetables in sushi.
- () When you eat *kakinoha-zushi*, you eat leaves too.
- () *Kakinoha-zushi* has *kaki* leaves because they give flavor.

一方、前述の通り、文章の「詳細を理解させ」ながら「すべてを詳細に読ませようとしない」ために、よりコミュニケーションタスクを用いて理解内容を問うこともできます。

読み取った情報について問うタスク例② (NC3-5)

“Houses and Lives” (pp.58-59) を読み、*tulou* についての説明には T を、*ger* についての説明には G を () に書き入れましょう。

- () 建てたり解体したりが簡単にできる。
- () 敵の侵入を防ぐため、入り口が1つしかない。
- () 核家族の単位で1つずつ所有している。
- () れんがができていて、壁が厚い。
- () 1つの建物に多数の家族が住んでいる。
- () 木とフェルトでできている。
- () 遊牧民族として移動がしやすい家の特徴がある。
- () 家族や親類と密接に関わることができる。

この文章は、図鑑に掲載されている説明という設定（テキストタイプ）で、おそらく生徒たちにとっては新しい情報となる「土楼」および「ゲル」の特徴が書かれています。そのため、読む活動の目的は、書かれていることをすべて訳すことではなく、それらの特徴を理解することです。また、タスク中の「遊牧民族として移動がしやすい家の特徴がある」および「家族や親類と密接に関わることができる」は、本文中には直接的には書いていない事項ですが、与えられている情報をもとに推測をすれば、答えられる内容であると同時に、本文の最後を書いてあり、文章の論点でもある「その文化の人々の生活様式が家の特徴に反映されている」という点を理解できたのかを問う問題でもあります。このように、生徒が読み取った情報を確認する場合、漠然と訳させたり問題を解かせたりするのではなく、与えられた文章の目的や、そこから読み取るべき情報に効率的にフォーカスをさせられるようなタスクを与えることが大切です。また、文章中に「書かれている」事実ばかりでなく、それらの情報からどのようなことが「推測される」のか等を問うことで、よりコミュニケーション的な「意味のある」読む活動につなげることが可能になります。

c. 読み取った情報を整理させる

文章を読むことで得た情報を図や表に整理させるタスクです。特に図鑑やガイドブック、情報誌、パンフレット、ウェブなどを想定している文章の場合、情報を文字で理解したままにするよりも、読み取った情報を図や表に整理させることで、情報を比較したり、統合的にとらえたりさせることが可能になります。NC2-7 の In-Reading タスク3はこの例であり、「情報を効果的に伝えるための3つの手段」である図・グラフ・表について、それぞれの特徴をまとめさせるタスクです。このように情報を整理させ、活用しやすくすることによって、このあとの Post-Reading タスクでは、それを考察し、発展的な活動を行いやすくなります (NC3-5 の In-Reading タスク3 や NC3-6 の In-Reading タスク3 も同じ)。

NC2-2 についても、このようなタスクを設定す

ることができます。

読み取った情報を整理させるタスク例 (NC2-2)
 “A Calendar of the Earth” (pp.16-17) を読み、
 地球の歴史を表にまとめてみましょう。

何年前	地球での出来事	1年カレンダーにしたとき
		January
		February
		March
		April
		May
		June
		July
		August
		September
		October
		November
		December

ここでは、地球の成り立ちについての長い歴史がカレンダーになぞらえて説明されていて、その中で、恐竜がいた時代や人類の登場は最後のほんの1ヶ月程度の中のできごとになるのだ、ということを理解させることが重要です。同時に、カレンダーになぞらえることで、長い歴史がイメージしやすくなっている点についても気づかせることが求められます。文章中に書かれていることを表にまとめさせると、単純に書いてあることを理解するだけでなく、情報を整理し、再構築させることができます。また、そのような情報の整理を In-Reading タスクの段階で行うと、Post-Reading タスクの段階では、より発展的な活動を行いやすくなります。

③実践的な読み方をさせる

文章を読むことで得た情報をもとに、その情報を使って何かを達成させるタスクです。通常、私たちは「旅行先での行程を決めるために、ガイドブックを読むことで情報を得る」など、何か目的を達成するために情報が必要で、そのために読む活動を行います。授業内によりコミュニケーション的な読む活動を実現するために、教科書の文章を読むにあたっては、タスクを工夫することにより、よりリアルな場面を作り出すことは可能です。

このタスクは、読み取った内容を「情報」として扱い、それを自分なりに再構築させる活動であるという意味では前述の②cと同じですが、それがよりテキストタイプや文章が書かれた目的と合致していて、実生活で行われる読む活動に近いという点を留意する必要があります。

実践的な読み方をさせるタスク例 (NC2-3)

“For Our Future” (pp.30-31) を読み、発表のテーマとおもな主張を下の表にまとめてみましょう。また、あなたならどの発表を聞きに行きますか。1つ選んで○をしてみましょう。

発表のテーマ	Sea Level Rise	Clean Energy	Eco-Tourism
名前			
出身			
おもな主張			
聞いた発表			

NC2-3 は、パンフレットに掲載された会議の発表要旨という設定なので、読む目的は、それぞれの発表の要旨を知り、どの発表を聞きたいのかを決めるということです。ここでは、まずは読み取った内容を表に整理し、どの発表を聞きに行きたいのかを考えるという流れになっていますが、これは実際の生活の中でも行うことのある活動であり、より実践的な読み方をさせるようなタスクになっています(どうしてその発表を聞きたいのか、など、その理由を考えるタスクは Post-Reading で行います)。

④読み方のストラテジーを習得させる

読む活動において、文章に書いてある内容を理解することも大切ですが、「どのように読むのか」という「読み方のストラテジー」を習得していくことも重要です。例えば、学年が進み、文章が長くなると、より効率的に読むためにパラグラフごとの内容のまとまりにフォーカスをおく、パラグラフ・リーディングを意識する必要が出てきます。パラグラフ・リーディングに慣れるためには、まずはパラグラフのまとまりにフォーカスをおいたタスクを設定し、それに沿って文章を読ませることで、英語の文章の一般的な構成に気づかせるようにします。

読み方のストラテジーを習得させるタスク例①
(NC3-1)

“My Favorite Words” (p. 8) を読み、それぞれのパラグラフ番号と内容を線でつなぎなさい。

1	・	・	自身が Pete Gray のことばに励まされた経験
2	・	・	困難なときには Pete Gray のことばを思い出す
3	・	・	Pete Gray のことばの説明

読み方のストラテジーを習得させるタスク例②
(NC3-2)

“Finland --- Living with Forests” (pp.16-17) を読み、内容のまとまりごとにパラグラフを4つの部分に分けてみよう。また、それらはどのような内容のまとまりなのか、自分のことばで説明してみよう。

まとまり	パラグラフ番号	内容
1		
2		
3		
4		

これらのタスクは文章の内容を理解した上で、文章の構成に目を向けさせるような内容になっています。このような活動をくり返すことで、パラグラフごとの内容のまとまりを意識させ、それを利用して効率的に読む方法を身につけさせることができるようになります。

3. Post-Reading タスク

Post-Reading タスクの目的は、読む活動において、読み取るべき情報や内容を確認したあと (In-Reading 後)、自分の知識や経験、興味に照らし合わせて、考えをまとめたり発表したりすることです。

例示するタスクがすべての文章に当てはまるわけではありません。文章が書かれた目的やその内容に合わせて、生徒が文章を読んだ意義をより実感できるようなタスクを設定するようにします。

①文章で述べられていることに対して自分の考えを述べる

文章で筆者が述べた考えや主張について、または文章の中で起きたできごとについて、自分はどう考えるのかを述べる活動です。

自分の考えを述べるタスク例① (NC3-4)

“The Story of Sadako” (pp.40-41) のなかで、あなたがもっとも印象的だと思う文を抜き出してみましよう。また、なぜその文が印象的なのか、説明をしましょう。

印象的な文：_____

印象的だと思う理由：_____

物語などの感想を述べさせるタスクをする場合には、漠然と感想を求めるのではなく、上記のタスクのように、何に対してどう思ったのかを具体的に聞くようにします。

自分の考えを述べるタスク例② (NC2-1)

ポールの日記 (p.8) の最後に “I touched the spirit of Hawaii.” と書かれています。ポールの日記の内容から、あなたは “the spirit of Hawaii” とはどのようなものだと解釈しますか。説明してみましょう。

上記のタスクでは文章のキーワードとなる “the spirit of Hawaii” をどのように理解したのかを問うています。文章中の “The hula is our tradition. ... and our history.” がヒントになりますが、それを生徒がどのように説明するのか、生徒自身の背景知識なども活用させながら、自由に答えさせてみましょう。

自分の考えを述べるタスク例③ (NC2-8)

なぜラーズは3つの言語を使い分けているのでしょうか。また、あなたはことばを使い分けていますか。どのように使い分けているのか説明してみましょう。また、なぜ使い分けているのかも考えてみましょう。

ラーズが言語を使い分ける理由： _____

あなたのことばの使い分け方：

どのようなことば	どのような場面で使うか

Post-Reading タスクでは、文章で読み取った内容を総括させるような活動を行うことも大事ですが、その内容を自分の経験や生活に照らし合わせるような活動をさせることも大切です。日本では、インドほど「言語」の使い分けは行われていませんが、生徒の生活の中では、何かしらの「ことば」の使い分けは行っているはず。それを顧みることで、ことばに関する感性を養っていきます。

②文章で取り上げられた内容に関して、自分も同じようなことを書く

筆者が自分の考えを書いたり、何かが説明されている文章を読んだあと、それを手本にして生徒自身が、同じようなテーマで自分の考えを書いたり、自分の知っている何かを説明するタスクです。生徒が英語で発信をするよいチャンスになります。

自分も同じことを書くタスク例① (NC3-8)

“English for Me” (pp.94-95) で述べられている考えのなかで、あなた自身の考えは誰のものに近いですか。あなたにとって英語とは何か、英語でメッセージを書いてみましょう。

考えが近い人物： _____

メッセージのタイトル： _____

あなたのメッセージ： _____

このタスクは教科書の Post-Reading タスク 1 の続きです。それぞれの人物の主張はまとめてありますので、それをもとに自分の意見をまとめるタスクです。生徒がいきなり自分の考えを書くということは難しいこともあるので、まずは教科書の誰と考えが近いのかということに答えさせて、それをヒントに自分の考えをまとめさせるようにします。

自分も同じことを書くタスク例② (NC2-4)

“Enjoy Sushi” (pp.42-43) で紹介されているように、自分たちが住んでいる地域や自分たちが知っている地域に特有な「食べ物」を取り上げ、英語で説明してみよう。

[メモ]

地域に特有な食べ物： _____

どのような食材が使われているか： _____

特徴的な点： _____

[紹介文]

タイトル： _____

NC2-4 をモデルにして、生徒が自分の知っている地域に特有な食べ物を説明させる、教科書の Try のタスクです。いきなり紹介文を書かせるのが難しいと思われる場合には、準備としてこのように [メモ] のような活動を入れると、必要な語句の準備にもなり、活動が行いやすくなります。

③文章で与えられた情報を用いて何かを行う

In-Reading タスク⑦のような、文章を読むことで得た情報をもとに、その情報を使って何かを達成させるタスクは、Post-Reading タスクとして行うこともできます。本来、私たちが生活の中で「読む行為」を行うのは、何かの情報を得て、それをもとに行動をするためであることが多いですから、Post-Reading タスクにおいても、同じような活動を行い、実践的な読みの実感を持たせることができます。

情報を用いて何かを行うタスク例 (NC2-3)

“For Our Future” (pp.30-31) の会議のパムフレットを見て、Emma から以下のようなメールが来ました。返事を書きましょう。

Hi!

Did you read the pamphlet?

I can't choose.

“Clean Energy” will be nice, but I think “Eco-Tourism” will be interesting.

What do you think?

Emma

④文章について自分の感情・気持ちを表現する

物語やスピーチなどを読むときには、登場人物や筆者の気持ちを理解することが大切です。そして、筆者がどのような気持ちなのかを理解するためには、書いてある内容を十分に理解できていないといけません。文章を読み終わり、全体を理解したあとに、登場人物や筆者の気持ちを考えながら、感情を込めて音読することも Post-Reading タスクの 1 つとなります。

自分の感情・気持ちを表現するタスク例 (NC2-5)

“My Dream” (pp.58-59) を音読してみましょう。そのとき、実際にスピーチをしていることを想定して、以下のポイントに気をつけましょう。

(a) 聞き取りやすい声の大きさ

(b) 語りかけるような口調

(c) 感情のこもった抑揚

USE Read 実践例 1

生徒の「読みたい」気持ちを 引き出す授業 (Book 2 Lesson 2)

枝 迫 香 葉 (鹿児島県奄美市立名瀬中学校)

1. 学習指導要領改訂における「読むこと」

平成20年3月に公示された学習指導要領における改訂のポイントの中で、特に「読むこと」に関わりが深いものとして次の2つが挙げられます。

- ①「読むこと」「書くこと」の指導の充実を図る
- ②4技能を総合的に育成する指導の充実を図る

①は、平成23年度より、小学校における外国語活動が実施されていることを受けたものです。つまり、「これまで中学校で重きを置かれてきた聞くことや話すことは、小学校外国語活動の中でも慣れ親しむことのできる活動になる。中学校では、読むことや書くことにも力を入れていこう」ということです。

②は、学習指導要領における「読むこと」の言語活動に新たに加えられた次の項目に、その内容が具体的に示されています。「(オ)話の内容や書き手の意見などに対して感想を述べたり賛否やその理由を示したりなどすることができるよう、書かれた内容や考え方などをとらえること。」つまり、「単に内容を理解するというにとどまらず、その内容をもとに、話したり書いたりすることができるようにしよう。そうすれば、読み手としての主体的な態度を引き出しながら、4技能を総合的に育むことができるだろう」ということです。

2. USE Read における基本的な授業の流れ

そこで、今回の改訂によって *NEW CROWN* で新設された USE Read では、次のような流れで活動を行いながら、「読み手としての主体的な態度を引き出すこと」「4技能を総合的に育むこと」に視点をおいた授業を目指すことにしました。

- (1) 黙読し、書かれている事実等をとらえる活動
- (2) ペアやグループで話し合い、読み深める活動
- (3) 読み深めた内容をもとに、表現する活動

3. 2年生 Lesson 2 USE Read における授業づくり

教科書本文では、実際の時代を表す“about 200 million years ago”などの表現と、地球の歴史を1年カレンダーとして示す際の“on December 13”などの表現が混在しています。そこで、これらが表す内容を視覚的にもとらえながら理解できるように、次のようなタスクを設定することにしました。

タスク：地球の歴史カレンダーを作ろう！

具体的には、(1)で新出語句の導入や個人での内容読解を行い、(2)では、ワークシートを用いながら「地球の歴史カレンダー」をペアやグループで完成させます。その後、(3)では、完成したカレンダーにサブタイトルをつけるという活動を行い、読み深めた内容をもとに表現できるようにしました。

なお、本文は、生徒がこれまでに読んだ最も長い英文のさらに2倍以上の長文となっています。そこで、本来であれば、全文を通読しながらこれらの段階を踏みたいところですが、今回は次のように本文の内容を区切り、3時間で授業を計画することにしました。

- [1 時間目]: ①～③段落の内容読解
地球の歴史カレンダー作成 (前半)
- [2 時間目]: ④～⑤段落の内容読解
地球の歴史カレンダー作成 (後半)
- [3 時間目]: 本文の通読とサブタイトル作り

4. USE Read における授業の実際

1 時間目 今回は、タスクの内容を考え、あえて教科書を開かずに授業を始めることとし、次のようなワークシートと本文を印刷したプリントを配布しました。

Lesson 2 USE Read A Calendar of the Earth

1	2	3	4
5	6	7	8
9	10	11	12

新出語句を導入したあと、「①ワークシート上の12個のボックスはそれぞれ何を表しているか考えよう」「②それぞれのボックスと関わりの深い言葉をふせんに書き出し、ワークシートに貼り付けてみよう」と指示し、個人での読解を進めさせました。

しかし、個々の力では、本文の一部を理解することはできても、全体のイメージをとらえることが難しい生徒もいました。そこで、(2)に進み、ペアを組み、話し合いながら活動を続けさせたところ、例えば、次のような反応が見られました。

- A:「このボックス何かわかった?」
 B:「たぶん, January, February, ... だと思うけど。」
 A:「何でわかるの?」
 B:「ここに one-year calendar ってあるでしょ?」
 A:「あー! じゃあ, The earth was born. を1月1日に貼ればいいのか。」
 B:「うん。でも地球って1月1日に誕生したの?」
 A:「えーっと…」

このような話し合いを行う過程で、生徒は自然とポイントとなる部分を探しながら、主体的に読み取ろうとするようになりました。その後、話し合いが一段落したところで、全体での確認を行い、特に生徒がつまづいていた “When we make a one-year calendar of its history, …” などについては詳しい解説を加えて1時間目を終えました。

2 時間目 1時間目の内容を確認しながら、新出語句として扱う dinosaur, human を示し、「恐竜や人類はいつ頃誕生したのだろう」と問いかけ、予測させてみました。生徒からは、「9月頃かな」「もっと後じゃない?」と次々と意見が出され、「今日は続きを読んで、それを確かめてみよう」と動機付けをしたあと、1時間目と同じような流れで授業を行いました。前時の経験と事前の予測があったため、1時間目にも増して活発に話し合いが行われ、恐竜や人類誕生の時期を読み取った生徒からは驚きの声が続々と聞かれました。

3 時間目 本文を通読し、いよいよサブタイトルを考えさせることにしましたが、ペアでもなかなかアイデアが出ず、4人グループに切り替えて活動させました。短い英文で表現することが特に難しいようでしたので、机間指導の中でアドバイスを与え、何とか次のようなサブタイトルが完成しました。

We are very new Long story of the Earth

これらは本文の内容を読み深め、主題に迫ったからこそそのサブタイトルではないかと感じました。

5. 「読みたい」気持ちを引き出す授業

授業の最後に、「この博物館の展示を読み、あなたが感じたことを書きなさい」という問いかけをしたところ、次のような感想が書かれていました。

最初は、文章がとても長くて、読みたくなかったけど、でも、実際に読んでみると、すごくいろいろ勉強になって、おもしろかったです。人類には長い歴史があるのに、地球にしてみたらそれは365日分の1日だと知ってとってもびっくりしました。難しかったけど、なんとか理解できてよかったです!!

「読まなければならない分量が増えた」ととらえれば、教師も生徒も負担に感じてしまいましたが、「中学生にとって本当に読む価値のある文章が扱われるようになった」ととらえれば、こんなに楽しい教材はないのではないのでしょうか。

これらの教材の良さを生かし、生徒の「読みたい」気持ちを引き出すことが、USE Read の授業を成功させる鍵ではないかと感じました。



USE Read 実践例 2

事実発問と類推発問で

読みを深める授業 (Book 3 Lesson 4)

岸 貴彦 (岐阜県羽島市立中央中学校)

1. USE Read の時間をどうとらえるか

平成 24 年度版 *NEW CROWN* では、学習指導要領の改訂に伴い、英語を読む力を養うため、1 年の Lesson 7 以降の各レッスンに USE Read が新設されています。私もそうでしたが、この USE Read を具体的にどのように取り扱い、どのように指導したらよいか、迷っている先生方も多いのではないのでしょうか。それは、これまで教科書で取り扱われていた文章に比べて、新出語彙や文章量が多く、生徒たちにしっかりと内容を理解させようと指導していくと大変時間がかかるからです。私たち英語教師は、生徒に英語を読み取らせていくとき、ピクチャーカードを使ってオーラル・イントロダクションを行ったり、読み取りのための補助プリントを配布したりして、何とか生徒がわかるように指導・援助をしていきます。しかし、これでは、生徒たちは文章に書かれた情報を理解することはできても、文章に込められたメッセージ(主題)を読み取る力を身につけていくことはなかなかできません。そこで、この USE Read の時間を、生徒たちが自分の力で文章に込められたメッセージ(主題)を読み取っていく時間ととらえ、授業実践を行っています。

ることを、英語で簡単に対話させていきます。生徒に禎子像のピクチャーカードを見せながら、“Have you ever seen this? What is this?” と質問をしながらトピックを導入し、“Talk about Sadako with your partner.” と指示を出して、ペアでお互いに知っていることを交流させます。当然、“I don't know.” と答える生徒もいるわけですが、ある生徒は、自分の知っている情報について既習表現を使って、“Sadako made many paper cranes in the hospital, because she wanted to be fine again. Now people make a thousand paper cranes.” と表現していました。

ペアで対話させたあと、数人の生徒に知っていることを発表させ、生徒たちが持っている情報を全体で確認します。文章を読んでいくとき、自分の知識や経験から、内容を推測し、読み手として主体的に考えたり、判断したりして理解していくことは、英文を読み取っていく上で非常に重要です。生徒たちは、書かれている題材について何も知らない状態で読むよりも、主体的に読み始めることができます。

3. 事実発問と類推発問で読み進める In-Reading

Pre-Reading の活動を通して、これから文章を読もうという意欲化が図れた段階で、生徒たちに物語を黙読させます。読み方や意味のわからない単語については、下線を引き、前後の文脈からできるだけ内容を推測しながら読んでいくように指示をしておきます。これは、読み方や意味のわからない単語をはっきりさせ、後に意識して読み方を確認したり、意味を調べたりさせるためです。生徒たちは自分で文章を読み進めていきますので、教室内は非常に静かな状態で学習が進んでいきます。この段階では、読み取れた内容もあれば、読み取れていない内容も

2. 知っていることを共有させる Pre-Reading

ここでは、3 年生 Lesson 4 The Story of Sadako の USE Read で行った実践を報告します。扱われているのは、原爆の子の像のモデルとなった佐々木禎子さんの物語文です。広島原爆にまつわる事実を知り、平和について考える題材です。彼女についてよく知っている生徒もいれば、あまり知らない生徒もいます。そこで、生徒の知識をお互いに共有させるために、禎子さんについて知ってい

あるはずですが。ここで、一度、教科書 p.40 にある以下の設問に取り組みます。

＜内容理解の設問＞

1. できごとの順に、()に番号を書き入れよう。
 () 禎子さんがリレーの選手になった
 () 原爆が投下された
 () 禎子さんの像が建てられた
 () 禎子さんが入院した
2. もう1度読んで、次の問いに答えよう。
 (1) What happened on August 6, 1945?
 (2) What subject did Sadako like?
 (3) When Sadako became sick, what did a doctor say to her parents?
 (4) How did Sadako feel when she received some paper cranes?
 (5) After Sadako died, what did her friends decide to do?

これらの設問は、文章を正確に理解していくための設問で、文章に書かれている情報を使って答えることのできる事実発問です。生徒たちは、先ほど読み取った内容を思い出しながら、そしてわからない部分はもう一度答えの部分を探しながら、読んでいきます。ある程度取り組みませたら、新出単語の読み方と意味を教えます。この段階で生徒は線を引いた単語の多くの発音と意味を理解します。また、忘れてしまっている単語や、移行措置の関係で未習であっても既習扱いになっている単語もありますので、そういった単語については、教科書付録の「単語の意味」で調べさせます。

しかし、ここまででは、本文内容に書かれている広島原爆や禎子さんについて書かれている情報については理解できていますが、本文に込められている「平和の尊さ」というメッセージについては深く理解できていない生徒がいるはずですが。そこで、“Did Sadako have a happy life?”と生徒に問いかけます。文章の中には、禎子さんが幸せな人生を送ったかどうかその答えは書かれていませんので、生徒たちは、文章中に書かれている様々な情報から考えて自分で判断をしていくこととなります。「禎子さんは12歳で亡くなってしまったけど、死

後も友人に思われ、像を建ててもらったので幸せな人生だったのではないか」「病院で再び回復することを願い、千羽鶴を折っていたのに、回復できなかったのも幸せではなかったのではないか」など、様々な視点から考えていきます。生徒たちは、禎子さんの人生について読んでいく活動を通して、文章に込められた「平和の尊さ」というメッセージ(主題)について深く考えていきます。

類推発問は、文章を深く読み取らせていくのに非常に効果的で、対話文を読み取らせるときにも活用できます。例えば、1年生 Lesson 4 GET Part 1では、「健とエマは何を作るのか?」、Part 2では、「南から来たのはどの鳥か?」、3年生 Lesson 5 GET Part 1では、「黒い屋根の家は健の家か?」等の発問で、生徒たちは読み手として主体的に判断しながら、読むことができるようになると思います。

④. 読み取ったことや考えたことを表現する Post-Reading

文章を読んで読み取ったことや考えたことを表現する活動に取り組みます。ここでは、禎子さんについて読み取ったことや考えたことを表現させました。“Please tell me about Sasaki Sadako.”とお互いに聞き合い、禎子さんについて伝え合います。生徒たちには、できるだけ教科書にある表現を使って伝え合うように指示します。英語が苦手な生徒には、p.41のPost-Readingにある文を参考にして活動させます。そうすると、生徒たちは、教科書の表現を参考にしながら、わかったことや思ったことを表現していきます。数人の仲間と対話を終えたところで、自分の話した英語を書かせます。書き終わったら、もう一度教科書を見て、自分の書いた文章の単語のスペルミスや表現の間違いを訂正させ、文章を完成させます。

【参考文献】

田中武夫(2012)「推論発問でメッセージを読み取らせる」
TEACHING ENGLISH NOW vol.22.pp.6-7, 三省堂



USE Read 実践例 3

ライティングにつながる リーディング指導 (Book 2 Lesson 5)

山本明子 (兵庫県神戸市立八多中学校)

1. Mini-project を視野に入れた指導

2年生 Lesson 5 は、GET で不定詞について学習し、その使用場面を USE Read で確認するとともに、その後の Mini-project でスピーチの構成についての学習もできるレッスンである。したがって、単なる内容の把握にとどまらない、スピーチ原稿を作るライティングの際のマッピングを取り入れた指導を考える。

いる。「ラウンド制」とは、「多様な方法を用いて、いろいろな角度から1つの教材を学習させる指導法」である(門田, 2010)。それぞれのタスクごとに、グループを構成している生徒が、司会をしたり、記録をしたり、意見をまとめたりする役割を持つように指示をする。その上で、各タスクをまず個人で考え、次にグループで話し合い、教え合って、その後クラスで各グループの意見を発表しながら読解を深めていく。

2. 背景知識を使ったリーディング指導

USE Read において、生徒が苦手意識を持つ理由は、単語の意味がわからないために理解できないことであったり、英文がたくさんあって最後まで読む気がなかったりすることである。これらを解決して、将来自分の力で英文を読む力をつけていくために欠かせないのが、背景知識を利用して、わからない単語などを推測しながら読む力を育てることだと考える。その背景知識の利用には2種類ある。1つは、図や絵を利用して既に持っている知識と関連付けて読むものであり、もう1つは、英文の構成についての知識を利用して読むものである。この2つを統合して、筆者の伝えたい意図を把握するリーディング指導を考えたい。

4. Lesson 5 指導の具体例

①内容についての背景知識を確認する

Pre-Reading では、本文4段落めの久美の花火に対する思いを最終的に気づかせるような発問をする。グループワークで話し合い、花火についての知識や花火についての思い出を考えさせる。

- (1) あなたはどんな花火が好きですか?
好きな花火の絵を描いてみよう。
- (2) なぜ、その花火が好きなのか理由を書こう。
- (3) 自分の思い出に残っている花火大会や花火は?
(その理由も書こう。)

3. グループワークを取り入れた ラウンド制

中学校の段階では、個人だけでは発想が乏しかったり、考えることに意欲を持てなかったりする生徒が見られる。そのために、3~4人を基本にしたグループを作り、お互いが考えたことをグループ内で出し合って、みんなで考える方法を取り入れることも効果的である。

リーディング指導においては「ラウンド制」を用

②文の構成、段落の構成を考える

(p.22 ワークシート参照)

マッピングを用いて、構成について意識を向けながら読解を進める。段落内で Main idea (メインポイント) のあとに具体例が1つ~2つ書かれるという構成については Lesson 3, 4 の USE Read で学習済みとして、今回の Lesson 5 では、段落間のつながりを中心に考えさせる。このときに、ディスコースマーカーなどをあらかじめ提示しておいて、段落間の構成を意識させることもできる。

③各段落の概要を掴む

内容についての背景知識と、段落内・段落間の構成について意識を持った上で、p.58のIn-Reading 2を使って内容を把握させる。

このときに、問題になってくるのが単語の知識である。新出単語であったり、既習単語であっても忘れていたりするために、内容理解の妨げになる場合がある。しかし、音声を伴って読解をさせることで、新出単語であっても、ゲームや実生活の中で聞いたことがある単語と関連付けながら意味を推測することができたり、文字からは思い出せない既習単語も、音声を聞くことで単語の意味を思い出したりする場面がある。したがって、②では黙読により自分の力で読みながらマッピングをさせるが、内容理解に進む③では、CDや教師の音読を伴う読解を行う。音声聞いても意味がわからない単語については、グループ内で話し合わせる。意味がわかった生徒は、「こんなときに使っている」とお互いの経験から意味を推測させるようにする。

④より深い読みへ

③は、本文の文字通りの意味をまず理解させるタスクであるが、④ではIn-Reading 3を利用して、本文を読んで筆者の気持ちを考えさせる発問をする。

問1 久美さんが目指している花火師とはどういう人でしょうか。それは、どの内容からわかりますか。

問2 久美さんが作りたいと思っている花火とはどういうものでしょうか。それは、どの内容からわかりますか。

どの文・段落を根拠にその答えを導き出したのかも含めてグループ内で考えさせる。

また、一方では、本文の英文を1文提示して、その内容を考えさせる発問もできる。例えば、次のような問いである。

問3 I learned making fireworks is hard and dangerous. とありますが、久美さんは、どういふことを花火師から聞いたのでしょうか。

⑤要約の練習

Lesson 5より、Post-Readingで、要約をする活動が導入されている。内容を理解した上で、前述のマッピングを利用すると、要約の練習をすることができる。この活動が、次のMini-projectにおける自分の原稿を書く活動につながっていく。

⑤. ライティング指導に向けて

たくさんのインプットがなければ、アウトプットはできないし、良いインプットがあると、良いアウトプットの指導もしやすくなっていく。2年生の教科書では、Lesson 4までで段落内の構成を練習させ、Lesson 5から段落間の構成を考えてライティング指導ができるリーディング教材が用意されているので、いきなりライティングでマッピング指導を行うのではなく、実際の英文を読みながら、どのように自分の主張を伝えたいのかをマッピングを通して学習し、次に英文を書いていくとよい。その際に、雛形となるUSE Readで使われているディスコースマーカーを参考にだけでなく、自分の夢を語るのに、不定詞の用法や本文に出てくる単語を使うと効果的に書く指導ができる(例えば、be interested in や 何度も出てくるlearn など)。さらに、IDEA BOXに書かれている単語がUSE Readでどのような使われ方をしているかを参考にすることもできる。

リーディングには、様々な目的があるが、書き手の意図を理解するだけでなく、自分の知りたい情報を把握したり、効果的に自分の気持ちを伝えるために、どのような表現を使えばいいかを学習したりするものとしてとらえてリーディング指導に当たることによって、4技能統合を目指す指導につながると考えられる。

【参考文献】

門田修平・野呂忠司・氏木道人(編著)(2010)『英語リーディング指導ハンドブック』大修館書店

田中武夫・田中知聡(2009)『英語教師のための発問テクニック』大修館書店

タイトル

メインポイント

例・説明

まとめ

My Dream

Second, I like Japanese traditions.

Last year I went to a museum.

I learned fireworks have a long history in Japan.

I saw some *ukiyoe* pictures of fireworks.

But if I make them, I can have fun and give pleasure to others.

I learned making fireworks is hard and dangerous.

A few days later, I talked with a fireworks artist.

Everyone enjoyed them.

This summer, I went to a festival to watch fireworks.

First, making fireworks is worth doing.

In conclusion, the sight and sound of fireworks disappear in a moment, but they remain forever in people's minds.

Such memories give pleasure to everyone.

So, I want to be a fireworks artist. I have a lot of things to learn. But I will do my best. That is my dream.

I want to learn these and make new ones.

I am interested in traditional shapes and colors of fireworks.

「読む力」を評価する3つのポイント

根岸 雅史 (東京外国語大学)

1. テストの素材

教科書の本文をそのまま出題したのでは、真の「読む力」を評価することはできません。そこで、授業中に身につけた「読む力」があれば読める文章を、新たに用意することが必要になります。ここでは3つの方法をご紹介します。

①教科書とパラレルな文章を作成する

もとの文章の人や数字、場所などの情報を、他のものに置き換える方法です。この方法は、話の展開の個別性の低い1年生などに向いています。

②展開が似た文章を作成する

教科書の本文と同様の展開の話を作成する方法です。ただし、場合によっては、読まずに展開が予測できてしまうこともあるので注意が必要です。

③テキストタイプやジャンルを教科書に合わせる

教科書が手紙ならテストも手紙、物語なら物語にする方法です。この方法は、教科書の本文とはかなり異なった文章を用いるので、目指す「読む力」を授業中に身につけた生徒が本当に読めるかどうか保証はありません。ですから、テストを作成したら、その点についての確認を行う必要があります。

2. タスク

タスクは、基本的に教科書の In-Reading のタスクを用いるとよいでしょう。教科書のタスクは指導用に作られているので、場合によっては多少の変更が必要かもしれませんが、参考になるはずですよ。

タスクを考える際は、そのような文章を読んだら、現実の生活ではどうするか、頭の中でどのような作業を行っているかを考えます。たとえば、2つのものを比較する文章なら、2つを観点別に比較する表を完成させる、物語なら時間軸に沿ってできごとを並べていく、などです。

3. 評価方法

「読むこと」のテストは、多くは正解・不正解で採点できるので、それをもとに正答率を求めて評価基準に当てはめればよいでしょう。ただし、テスト・タイプにより、正答率の意味合いが異なることには注意が必要です。たとえば T/F は、適当に選んでも 50% の確率で正解します。したがって、少なくとも T/F のようなテスト・タイプの評価基準の B は、5 割では十分ではないことは明らかです。

課題例 (Bk1 L7) 次の Paul のレポートを読み、あとの問いに英語で答えなさい。

Blind Tennis

Do you know about blind tennis? Some blind people play it in Japan.

This is Mr Takei Miyoshi. He is blind, but he can use ears. He uses a special tennis ball. It has a nice, big sound, and he can hit it easily. Mr Takei is a very good blind tennis player.

What are some rules of blind tennis? Players say "ikimasu" and "hai" and then they can play. They can hit a ball after two bounces, but they cannot hit the ball twice.

Blind people like blind tennis very much. Let's watch a game.

[96 words]

注: blind 目の不自由な, 視覚障害者のための sound 音 hit ~を打つ bounce (s) バウンド

- (1) What sport does Mr Takei play?
- (2) Does Mr Takei use a special tennis ball?
- (3) What can Mr Takei do easily?
- (4) Do blind tennis players say "ikimasu" and "hai"?
- (5) Can blind tennis players hit the ball twice?

解答例:

- (1) He plays blind tennis.
- (2) Yes, he does.
- (3) He can hit a ball easily.
- (4) Yes, they do.
- (5) No, they cannot [can't].

※評価事例の詳細については、三省堂 Web サイトの「評価事例集」をご覧ください。

※トピックに関連した英文は、指導用教材「リーディング アイディア集」(巻末参照)にも収録しています。

USE Read のサポート

様々なソースから指導に役立つ資料・情報・素材等を提供しています。ぜひご利用ください。

■ Teacher's Manual (教師用指導書)

- ④ **ワークシート集**…コピーして使えるワークシートをまとめました。
- ⑤ **CD-ROM**…教科書本文やワークシートなどのデータを収録しています。ワークシートやテストの作成の際にご利用いただけます。

■ サポート資料

題材資料集…題材の背景知識をまとめた生徒用資料です。コピーしてお使いいただけます。

■ Web サイト (<http://tb.sanseido.co.jp/english/newcrown/index.html>)

題材リンク集…題材の参考になる Web サイトを紹介しています。

補充発問例…レッスンとびら・GET 本文の Q&A, USE Read の Pre-Reading,

In-Reading, Post-Reading の補充発問例です (PDF ファイル, 解答付き)。

評価事例集…評価の観点と問題例を掲載しています (PDF ファイル, 解答付き)。

『TEACHING ENGLISH NOW』バックナンバー

…リーディングについての記事を掲載しています。

「USE Read の仕組みと活用の仕方」(特別増刊第 1 号) /

「概要をとらえるリーディング」(特別増刊第 3 号) /

「題材を重視した指導」(Vol.22) / 「『読む』力を育てる」(Vol.18) /

「座談会『新しい時代の教科書本文を模索する』」(Vol.12)

■ 書籍

『リーディング アイディア集』

(全学年対応 B5 判 192 頁 定価(本体 2,800 円+税))

…教科書の進度に合わせたリーディングの教師用素材集です。文法を重視した読みもの・内容を重視した読みもの・その他の素材と多彩な設問を設けました。

『推論発問を取り入れた英語リーディング指導』

(田中武夫・島田勝正・紺渡弘幸 編著 A5 判 200 頁 定価(本体 2,200 円+税))

…テキストに書かれた情報をもとにして筆者の意図や登場人物の心情などを推測させる「推論発問」の原理と指導法を、豊富な実例をあげて提案します。

『コミュニケーション・テストへの挑戦』(リスニングテスト CD 付き)

(根岸雅史・東京都中学校英語教育研究会 編著 B5 判 160 頁 定価(本体 2,400 円+税))

…コミュニケーションな授業にはコミュニケーションなテストを！リーディングのテスト例を含め、10 年間の実践研究から良問を精選し、ご紹介します。

三省堂

〒101-8371 東京都千代田区三崎町 2-22-14 電話 03-3230-9411 (編集)・9412 (営業)

●大阪支社 〒530-0002 大阪市北区曽根崎新地 2-5-3 電話 06-6341-2177

●名古屋支社 〒460-0008 名古屋市中区栄 3-25-43 瑞穂ビル 4F 電話 052-252-9211・9212

●九州支社 〒810-0012 福岡市中央区白金 1-3-1 電話 092-531-1531・1532

●札幌営業所 〒060-0042 札幌市中央区大通西 15-2-1 ラスコム 15ビル 3F 電話 011-616-8722